

令和6年度自己点検評価総評

1 神戸市立小磯記念美術館自己点検評価について

神戸市立小磯記念美術館条例は、美術に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に市民の利用に供し、その教養、調査研究等に資するために必要な事業を行うことを目的としており、小磯記念美術館では(1)展示および(2)研究、普及、啓発、連携等の活動を事業の2つの柱として位置づけ、自己点検評価を実施する。

※ 研究：美術館資料に関する専門的かつ技術的な調査研究、普及：美術館資料に関する図録・年報等を作成・頒布、啓発：講演会・講習会・研究会等の開催、連携：学校、地域、他の美術館等と連絡・協力

また、美術館事業を行うにあたって(3)美術館の経営や(4)設備管理についても考慮する必要があることから、これら2つの管理的な事項を加えて自己点検評価を実施する。

2 令和6年度神戸市立小磯記念美術館自己点検評価 「総評」

【総評】

展示その他の活動はマンパワーが少ないにもかかわらず充実したものとなった。一方で、入館者数・収支は前年度並みであり、コロナ以降の低水準から脱却できないでいる。

(1) 展示の内容等について「4」

展示内容としては、神戸の出版社が刊行した絵本の原画を描いた現代美術家33名の作品・資料を紹介した「絵本の旅」、東郷青児のコレクションを有するSOMPO美術館との連携で実現した「東郷青児」という2回の特別展を開催した。自主企画や個人記念美術館のネットワークを活かした企画であり、当館学芸員の調査研究成果を示すことができた。

収集では、小磯良平旧蔵の素描27点と資料一式をはじめ、貴重な作品・資料を寄贈によって収集できた。また、開館以来初となる空調機器の更新は、展示・収蔵環境の大きな転機となった。定期的な虫菌害対策の実施、各室の温湿度管理を実施し、適切に収蔵品の保管環境を保つことができた。

(2) 普及、啓発、連携等の活動について「4」

各所での講座・講演・講義、各誌への執筆活動により、小磯記念美術館の活動ならびに美術全般に対する普及啓発に資することができた。広報活動ではFacebook・X(Twitter)・Instagramを活用し、発信に努めた。

普及活動では、全ての人が美術館を楽しむことを目指し、子育て世帯向け、大人向けなどのイベントを実施した。不登校支援「ほっとスペース」を開設も新たな取り組みである。

連携では、大学や小中学校的教職員と連携し「全ての子供たちと美術館をつなげるガイドブック」を開発した。また、「六甲アイランドの野外彫刻MAP」をもとに、教職員向け研修会やまちづくり協議会での講演、高校の探求型授業のレクチャーなど行った。

(3) 経営状況(収支、入館者数)について「3」

入館者数は22,071人(特別展は18,632人)、入館料等の収入は11,910千円で前年度並みにとどまった。

(4) 施設整備について「4」

4月～6月にかけて、経年劣化が進んだ空調設備等の更新工事を実施、その性能の回復に寄与できた。

以上の自己点検評価において、担当者自らも問題点・課題を意識することで、次年度以降に向けての改善点をスパイラルアップできるようPDCAを実施していく。